

有 珠 山

○ 11 月の火山活動評価：静穏な状況

火山活動に特段の変化はなく、静穏な状況です。

○ 11 月の活動概況

・ 噴煙及び熱活動（図 2～6）

西山西麓火口群 N-B 火口の噴煙活動は静穏な状態で推移しており、噴煙の高さは概ね 100m 以下で経過しました。

13 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。赤外熱映像装置¹⁾による観測では、西山西麓火口群及び山頂火口原の地熱域の状況は、これまでと比較して変化はありませんでした。

- 1) 赤外放射温度計や赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を感じて温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、測定距離や大気等の影響で実際の熱源の温度よりも低く測定される場合があります。

・ 地震活動（図 2、図 7、表 1）

火山性地震は一日あたり 0～3 回と少ない状態で推移し、地震活動は低調な状態で経過しました。求まった震源は山頂部直下の浅い所に分布しており、これまでと比べて変化はありませんでした。火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動（図 8～9）

GPS 連続観測では、火山活動の高まりを示すような変動は認められませんでした。

○ 噴火警報、噴火予報の発表状況（12 月 6 日現在）

気象庁は平成 19 年 12 月 1 日より、有珠山について噴火警報及び噴火予報の発表を開始しました。それに伴い、12 月 1 日に以下のような噴火予報を発表しました。

なお、噴火警報、噴火予報と噴火警戒レベルについては気象庁ホームページを参照ください。

・ 活動状況及び予報警報事項：平常

火山活動は、これまでと変わらず静穏な状況で、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は見られません。有珠山の噴火予報・警報は、噴火予報（平常）です。

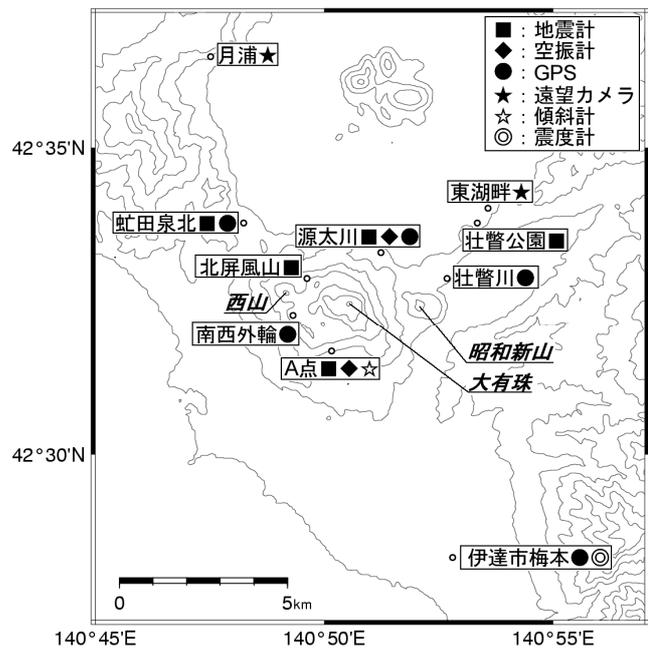


図 1 有珠山 火山観測点配置図

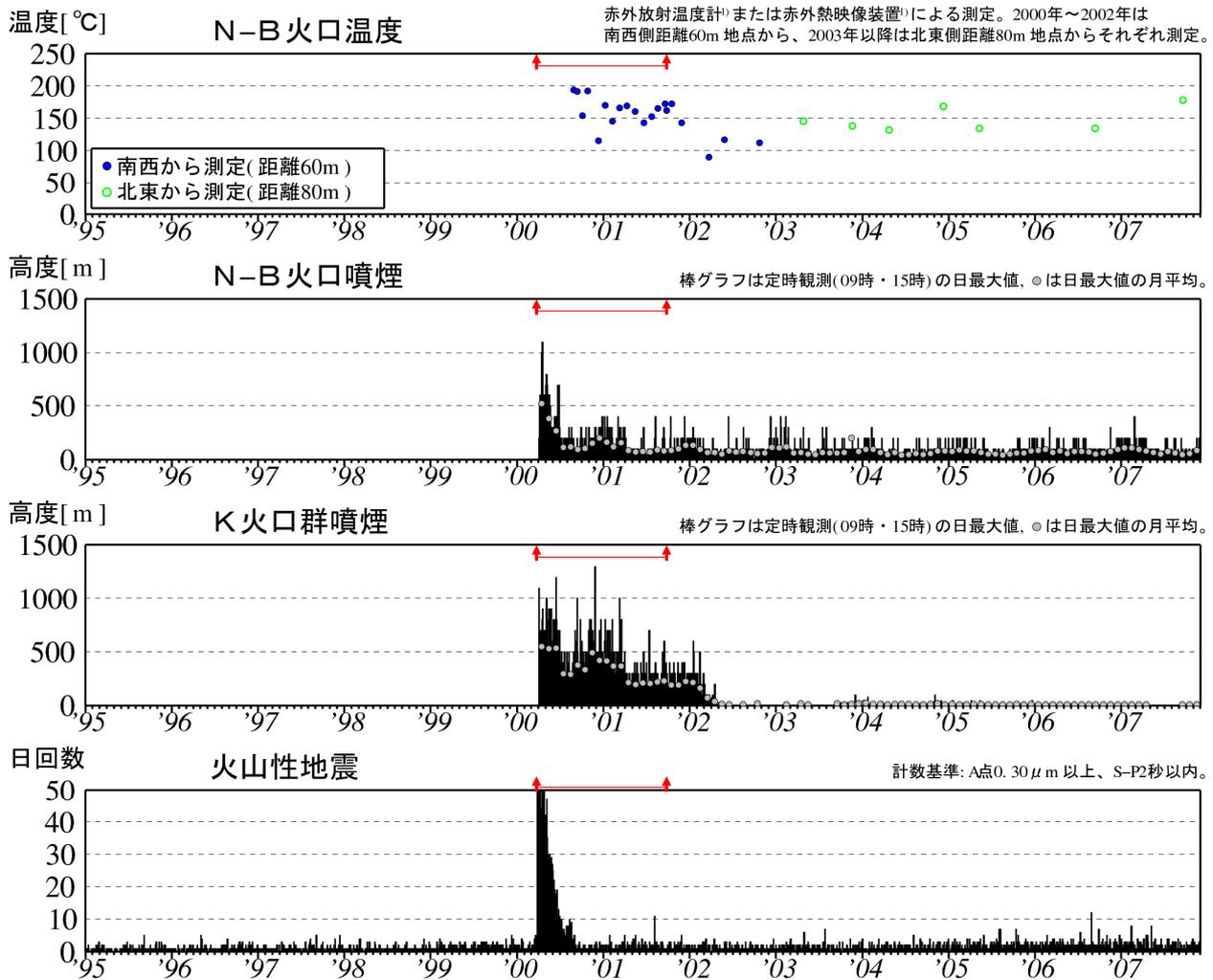


図2 有珠山 最近の火山活動経過図（1995年1月～2007年11月）

↑印で挟まれた期間は2000年噴火活動期

・2000年9月以降、地震回数は一日あたり概ね5回以下で推移しています。

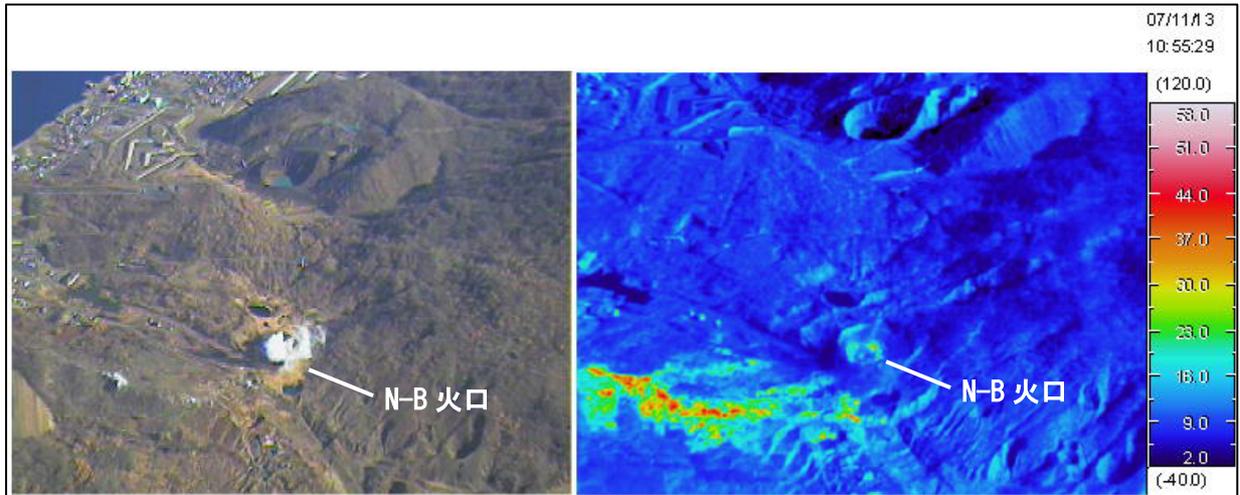


図3 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾による西山西麓火口群周辺の地表面温度分布
(2007年11月13日 図5の①方向から撮影)

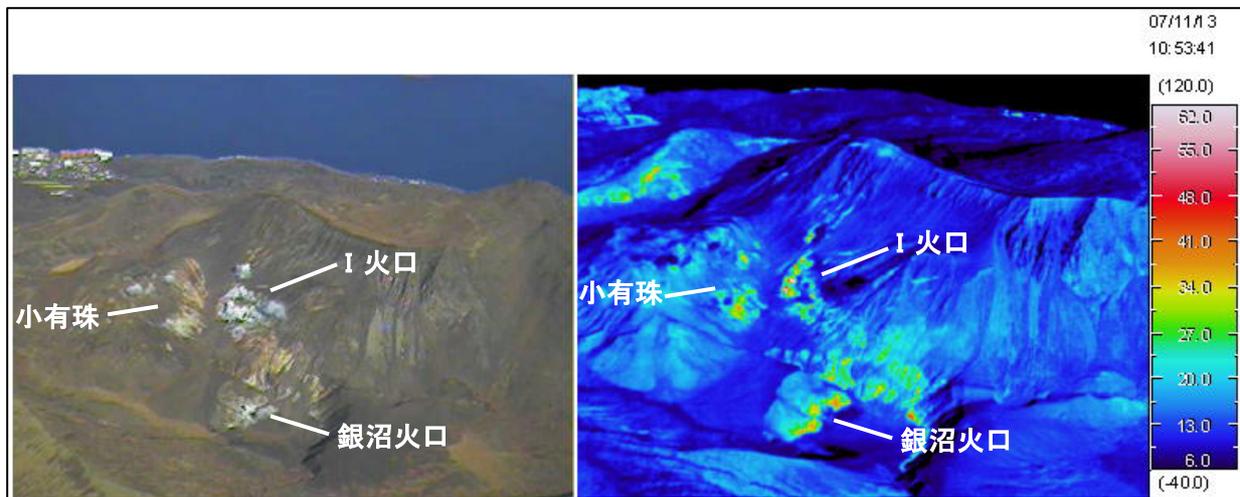


図4 有珠山 赤外熱映像装置¹⁾による山頂火口付近の地表面温度分布
(2007年11月13日 図5の②方向から撮影)

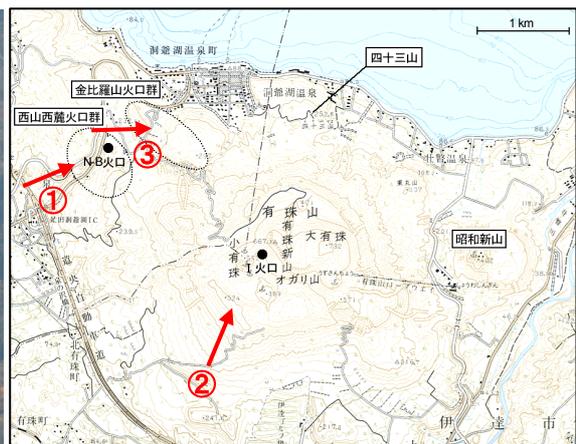


図5 有珠山 金比羅K-A火口(金比羅山火口群)周辺の状況 (2007年11月13日 図6の③方向から撮影)

図6 有珠山 火口周辺図

- ・西山西麓火口群では、N-B 火口及びその北西側の地熱域に対応した高温域が認められましたが、前回(2007年5月)と比較して状況に変化はありませんでした。
- ・山頂火口原や金比羅山火口群では、火口や地熱域の状況に大きな変化はありませんでした。

表 1 有珠山 地震・微動の月回数（A点：図7のUSUA）

2006～2007年	12月	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月
地震回数	37	40	36	24	37	33	26	26	41	20	26	29
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0

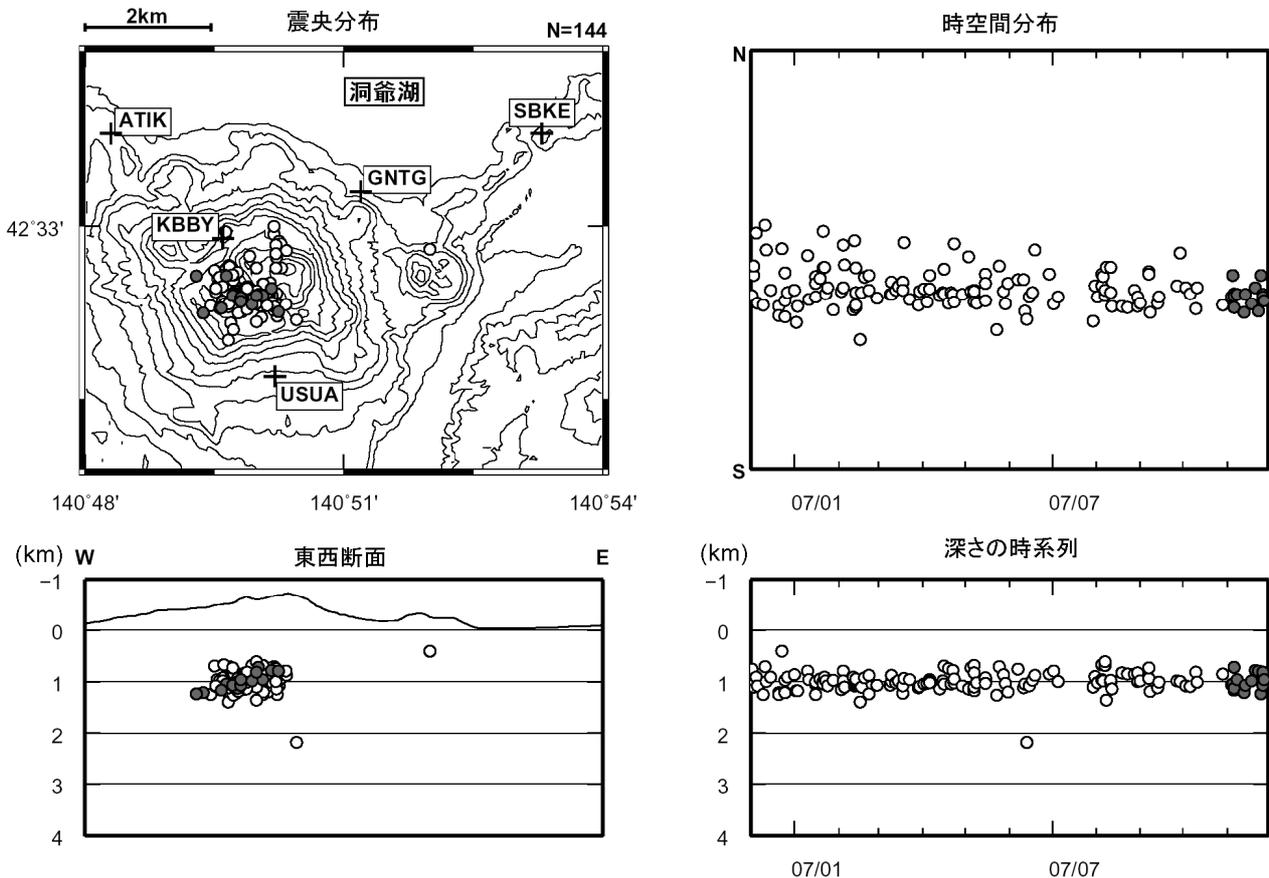


図7 有珠山 震源分布図（2006年12月～2007年11月、+は地震観測点）

- 印は今期間（2007年11月）の震源
- 印は前期間までの11ヶ月間（2006年12月～2007年10月）の震源
- ・前期間までの震源は山頂部直下の浅い所（山頂から深さ1.5km付近）に集中しています。今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

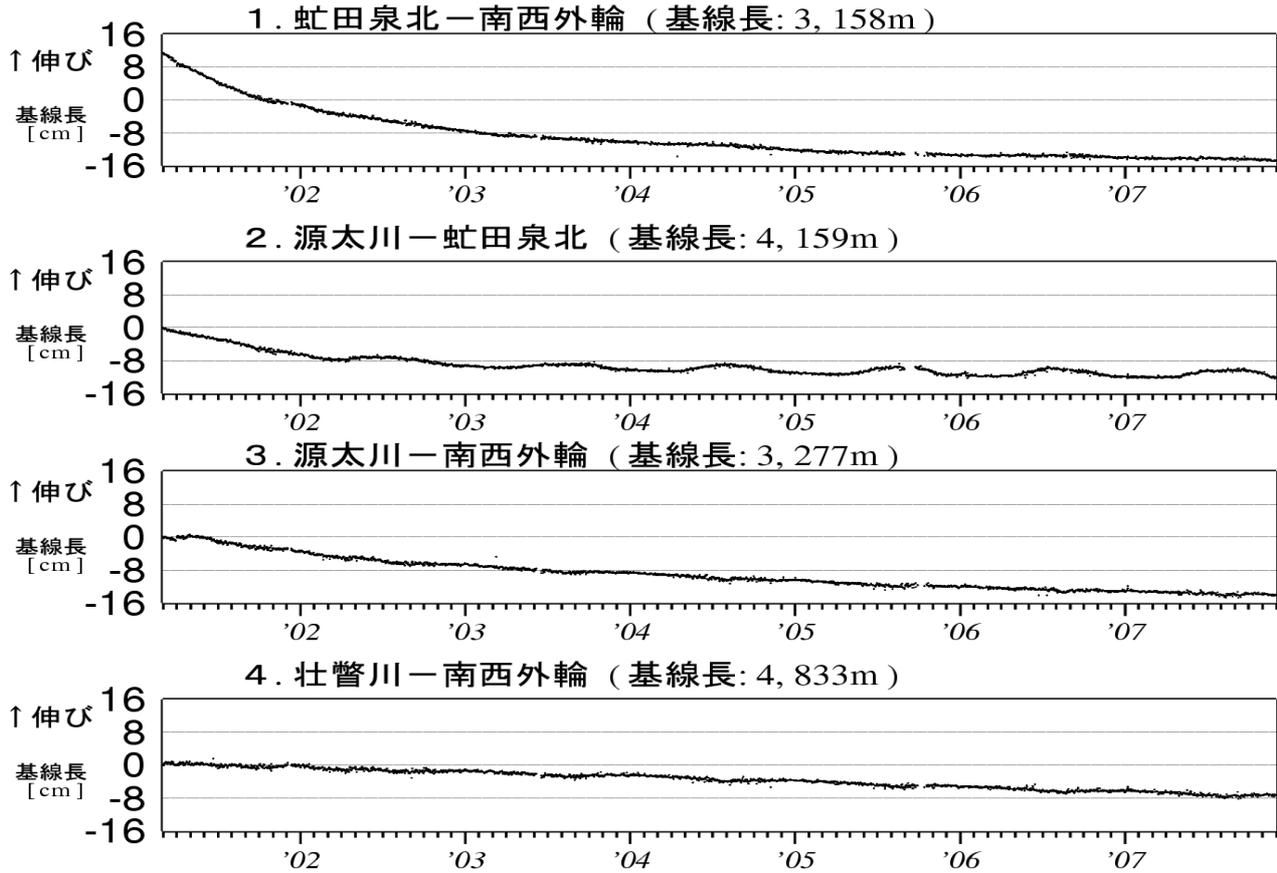


図 8 有珠山 GPS 連続観測による基線長変化 (2001 年 3 月～2007 年 11 月)
 グラフの空白部分は欠測
 図 8 の 1～4 は、図 9 の GPS 基線①～④に対応しています。

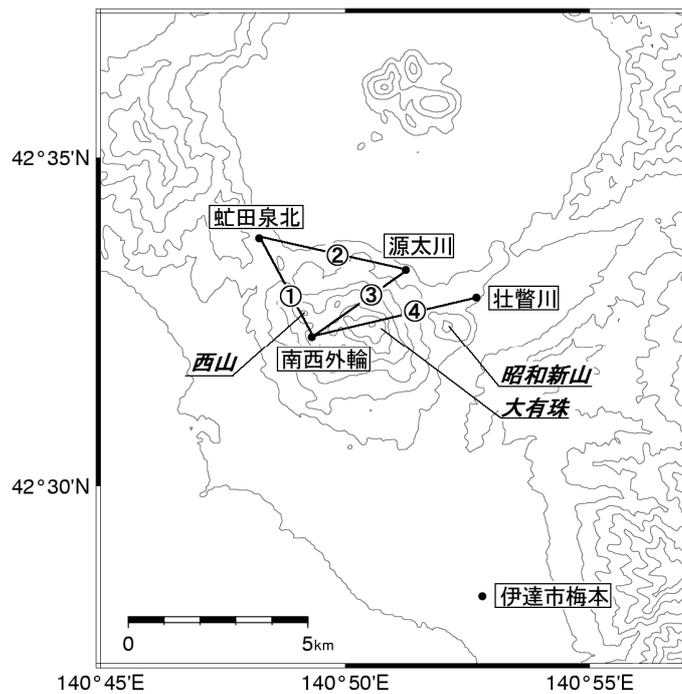


図 9 有珠山 GPS 連続観測点配置図